



## 「お母さんのわら草履」<sup>そうり</sup>

ないとう のぶこ  
内藤 延子 さん

宇治

わら草履を作り始めたのは、小学校5年生、終戦の頃でした。戦後まもなくして配給で靴が支給されるまでは、わら草履で学校へ通っていました。雨や雪の日は片道で濡れてしまうため、もう一足持参しました。足袋はお母さんが古着などの生地を使って作ってくれました。

わら草履作りは、夕食が終わったあとの夜なべ作業で、囲炉裏を囲んで家族で行いました。一足編むのに1時間くらいかかります。しっかりときつく編むと長持ちするけど、2日も履けばぼろぼろになります。でこぼこ道を1時間以上かけて歩いて通っていたため、毎日のように新しい草履を作っていました。当時はよちよち歩きの頃からわら草履を履いていました。

お嫁に来てから、作り方を忘れないようにと試しに作ってみたところ、体は覚えていてまだ作ることができました。そこから内藤さんのわら草履作りがまた始まりました。今では注文や体験の依頼があれば農村公園で受けて作っているそうです。内藤さんの家の玄関には、復帰後第一作目の子どものわら草履が飾ってあります。

